



## 北崎さんの里芋



いつも温和で笑顔が素敵な北崎さん。「天候もそうだし、TPPとか国策もちよいちよ変わるから、最近の百姓は難しいな」と言います。



「里芋はとにかく手がかかるけど、一番は収穫して子芋をばらす作業が大変だな」と言います。今回も1つ1つ手作業で子芋を外していました。

- 里芋は5kg、10kg箱でも注文可能です。
- 里芋は5人のメンバーの持ち回りで出荷していきます。

### ★悪天候にも負けず育った里芋です

北崎さんはこの道50年の大ベテランで「里芋は親父の代から作っているから、ずっと作っているな」と言います。そんな里芋はとにかく野菜の中で最も連作がダメな野菜。「1度、病気が出た畑は5年経ってもダメだな」そのため北崎さんは1度作ったら4年は間を空けるといいます。また「とにかく里芋は手間がかかるんだよ」と言います。里芋は種芋を傷まないように春まで貯蔵し、春に種芋を植えた後は土寄せを何度もし、追肥もし、1週間～10日に1回は水をかけなければなりません。

「今年の夏は雨が降ったから水をかけたのは2回で済んだよ。でも9月の雨は参ったな。どうしようもないよ」と言います。というのもお日様が出ないので茎や葉っぱは大きくなって、光合成が行われず実が入らないのです。「本当は9月にぐぐっと子芋が育つんだけど、あんな天気が続いたから、親芋ばかりがでかくて子芋が大きくは育ってないんだよ」と言います。それでも畑には肥料分は少ないのですが土質を良くするワラ屑たい肥や完熟鶏糞を入れて毎年土作りをしてきたので、今年の悪天候でもしっかりした里芋が育ちました。

品種は富士早生。石川早生に比べて煮込むと少し粘りがある品種で「今の時期のものはまだ固めだけど、これから実が入ってきてトロリとしてくるよ」とのこと。お勧めは煮っ転がし。「あのドロっとしたのが美味しいよな」。長年の経験と手間をかけて育てた北崎さんの里芋で秋を楽しみましょう。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

### 【産地情報】

◎長期間の天候不順のため、小松菜、チンゲン菜、ほうれん草など葉物は、今月中は不安定です。

◎ピーマンも収量が落ちているので、月末頃に終売予定です。大根は29日（土）出荷開始予定です。